

平成 29 年度物部川清流保全推進協議会合同部会 議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 29 日（木）13:30～15:40

場所：のいちふれあいセンター 2階 第1・第2学習室

1 物部川濁水対策検討会の検討状況について

- ・高知県河川課から説明

2 物部川の濁度調査の結果について（報告）

- ・事務局から説明

【主な意見】

- ・流域の農家に止水板を配布していると思うが、どれくらいの割合で使用されているか把握しているか。

⇒以前、物部川 21 世紀の森と水の会にアンケート調査を実施していただいたが、その後の経過について把握できていない状況である。濁水対策ワーキンググループにおいて検討していきたい。

3 物部川清流保全活動の推進に向けた取組の方向性について

- ・事務局から説明

【主な意見】

- ・平成 30 年度の具体的な取組の推進案について、到達地点を明確にしておく必要があると思われる。単にやったというだけで終わってしまい、有効だったかどうか判断できない。

⇒計画をどう進めていくかは 5 月開催予定の幹事会において、関係機関の計画をいただいたうえで詳細にしていく考えである。到達地点については検討ができていない状況であったため、例えば濁水対策については止水板の使用状況の調査方法をワーキンググループで協議するなどして、具体的な行動につなげられるよう検討させていただきたい。

- ・濁水のワーキンググループだけでなく、他のワーキンググループでも取り組んでいただきたい。

- ・今まさに代かきの準備をしているところだが、濁水が流れている。止水板の有無

と作成の予定について、また、チラシについては連携している農協からいただければいいのか。農家からも問い合わせや要望がある。

⇒チラシについては、以前、高知県中央東農業振興センターと当課の連名で配布したことがあるが、その後は配布できていない。今年は代かきが始まっており、時間も少ないことから、来年作に間に合うようにチラシの作成・配布について検討の時間をいただきたい。

・農業濁水対策の取組として、毎年、南国市で浅水代かきのデモを開催していただいているが、普及という面ではあまり展開できていない。県だけではおそらく無理かと思われるので、水利組合、JA、市も含めて広く連携・協働しながら濁水を出さないよう進めていただきたい。チラシやデモだけでは難しい。四万十町では、町から全農家に止水板を配布しており、支流の仁井田川や窪川がきれいになってきている。物部川もそういった展開をしていただきたい。

⇒流域3市や農業団体の皆さまと一緒に検討させていただきたい。

・県から協力いただきながら、止水板を作成したが、物部川21世紀の森と水の会の中でも効果の検証といったことができていないため、これから取り組んでいきたいと考えている。香宗川の濁水発生等、流域全体の中の動きを把握していく必要がある。3市に尋ねたいが、こういった話は数年間絶えず出てきているが、担当部局とどういった話し合いがされているのか。

⇒止水板の件については今回初めて聞いたところであり、産業振興課とはまだ話ができている。持ち帰って止水板や広報等について、今後も協議していきたいと考えている。

⇒止水板については、以前より課の中で共有はしているが、課をまたいでの共有はできていない。関係する農林課等に資料を回して共有を図っていきたい。

⇒止水板の作成時から担当となっており、その際には農林課から止水板を何枚か分けてもらい、農家へ配布もしてもらった。

・濁水対策について、平成24年から浅水代かきに取り組んでいる。この時期は農家が忙しい時期ということもあり、稲作部が中心に取り組んでいるところである。継続することに意義があるため、アピールもしている。止水板については5年前におよそ100枚ほどを農家1人に1枚配布したが、水田がいくつもあること、配布してから年数が経過していることから、再度作っていただきたい。また、これまで4月に浅水代かき実践会を行っていたが、時期が遅いということから、今年は3月22日に開催し、機械の実演も行った。毎年やることに意義があると考えている。

・JA 南国市には頑張って取り組んでいただいている。取り組むべき課題は本当に広く、細やかにみんなに知らせていかないと前に進まないことから、3市に先ほどの質問をした。清流保全計画の一番のポイントになっているのが、行政も民間も一緒に取り組んでいく協働という言葉を使っているところである。踏み込んでいく姿勢を持たなければいけないと考えている。また、以前にもお伝えしていたが、内容把握のためにも会の3日ほど前に資料をいただきたい。河川課の説明にあった発生源対策についてだが、これまでどういったことをしてきたか、今後の計画はどのように考えているか。

⇒今年度も12月から1月に佐岡で採取を行った。例年、場所を選定して継続的に取り組んでいきたいと考えている。来年度については、今年度と同程度の搬出に係る予算を確保している。また、佐岡近辺になると思われるが、濁水の発生状況をみながら一番効率的な場所を選定していく。

・下流全般において非常に砂利が多い川となっている。三嶺崩壊後、回復はしてきているが原風景にはまだ遠い。急傾斜地の中腹部、樹林内は悪くなっており改善もされていない。去年の台風で多くの風倒木があり、崩壊によって土砂流出が起これば砂利が多く流れる可能性がある。上流の砂利、濁水、発生源について問題がまだまだたくさんある。また、いろんな河川の上流で集約化された林業が濁水の発生源となっている。高知県中東部において下流域を含めて土砂が増えてきている。四万十川も砂利が出てきてなんともならない状態になっている。河川として生産力が落ちてきており、護岸工事において生物・環境に配慮したやり方が重要となる。

⇒ご意見に対してどういった取組ができるかというのはすぐにお答えできないため、皆さまのご意見をいただきながら進めていきたい。来年度の計画案については、幹事会の前に団体と話し合いながら詰めていく。

・不在地主といった山のこと等、物部川以外にも関する問題が出てきている。高知県内でいろんなことが起こっており、仁淀川や四万十川といった他の河川も合わさった議論の場が必要になってくるのではないかと。協議会から投げかけて、共通項について話し合うなどして連携を図っていただきたい。

⇒県全体での意見交換の場は持ちやすいと思われるが、対策について県全体でどうしていくかというのは難しい。林業については、国有林だけでなく県有林、民有林があることから、共通項はあるものの各エリアでの課題もある。この場でやりますと約束できるものではないため、来年度どういった形でできるのか考えていきたい。意見交換であればやりやすいと思われる。

4 その他（意見交換）

【主な意見】

止水板の作成及び配布の要望あり

物部川漁業協同組合からアユの増加について報告

物部川漁業協同組合が会終了後に本川のくろしお鉄道線路下で現地説明を開催

閉会